

研究レポート3

# 大変だけど成長につながる専門学校生の学び



山梨学院大学  
児島 功和

山梨学院大学経営情報学部、学習・教育開発センター特任准教授。日本社会事業大学、岐阜大学を経て2015年4月より現職。専門は、教育学、教育社会学。主に若年移行期研究、大学大衆化時代における大学教育のあり方に関する実証的・実践的研究。著書（共著）に『反「大学改革」論』（2017）『学生を思考にいざなうレポート課題』（2016）

## 1 実践的で応答的な学びの機会の豊富さ

専門学校にはどのような学びの機会があるのだろうか。それを見たのが **表3-1** である。まず、専門学校生全体と大学生の比較を行いたい。比較可能な8項目のうち6項目で専門学校生の数値が高くなっている。その中から10ポイント以上の差があるものを並べると、「8.実験や体験活動などの実践を通じて学ぶ」、「6.提出物や課題に対して教員からのコメントがなされたり、コメントが付いたものが返却される」、「1.グループワークなどの共同作業をする」、「4.上級生や下級生とやりとりをしながら学ぶ」となる。大学との比較から見えてくる専門学校の特徴は、座学ではない学びの実践性、同級生や上級

生、下級生といった他者との共同的な学び、教員との応答的な学びにあるといえる。そして、およそ8割の専門学校生が「9.学んでいる内容と将来の関わりについて考える」機会があったと回答するだけではなく、「15.試験や課題を通過するために相当の努力が求められる」とも回答しており、専門学校での勉強が将来の進路と密接に結びつくものであり、同時にいかに大変であるかが示されている。

専門分野間の違いもある。上述したように専門学校生全体ではおよそ8割が勉強を大変だと感じているが、「農業」や「服飾家政」では5割程度であり、「医療」では9割近くとなっている。また、「16.教員や上級生の技能・スキルを観察する」では、「衛生」のおよそ8割がそう

表3-1 これまでの専門学校での授業を通じて次のような機会はどれくらいありましたか

(%)

	工業	農業	医療	衛生	教育 社会福祉	商業実務	服飾家政	文化教養	専門学校生 全体	大学生
1. グループワークなどの共同作業をする	85.1	85.5	91.0	82.3	94.2	86.6	62.4	76.4	84.7	71.4
2. 人前でプレゼンテーションをする	73.3	44.7	<u>77.0</u>	42.2	<u>81.1</u>	65.4	37.6	50.6	63.9	67.0
3. 少人数で学ぶ	66.9	63.2	68.6	55.5	65.4	66.9	50.0	55.5	62.7	61.9
4. 上級生や下級生とやりとりをしながら学ぶ	35.3	28.9	49.1	48.5	49.4	40.7	12.5	27.1	40.1	27.7
5. 教員と双方向でやりとり・意見交換しながら学ぶ	64.0	50.7	58.9	54.9	66.4	60.3	50.0	60.1	59.4	50.8
6. 提出物や課題に対して教員からのコメントがなされたり、コメントが付いたものが返却される	63.1	71.1	<u>81.1</u>	61.2	74.7	63.8	62.4	69.2	70.7	50.5
7. 学んだ内容をふりかえり、文章や口頭で表現する	49.7	45.3	<u>65.4</u>	39.7	<u>66.1</u>	54.7	37.6	48.1	54.2	
8. 実験や体験活動などの実践を通じて学ぶ	65.9	<u>84.0</u>	78.4	75.2	<u>84.1</u>	60.9	62.4	52.3	68.3	41.1
9. 学んでいる内容と将来の関わりについて考える	79.0	75.0	84.8	80.6	84.4	80.5	62.4	78.4	80.7	
10. 教員の自由な意見や見解に触れる	75.8	69.3	75.5	67.7	76.3	70.8	24.9	73.8	72.1	
11. 最先端の技術や流行を知る	<u>78.6</u>	57.3	63.6	68.8	53.9	49.6	50.0	48.3	60.0	
12. 最新の企業・社会の状況を学ぶ	<u>74.3</u>	57.9	51.1	57.2	52.0	64.9	37.6	56.8	57.2	
13. 自分の考えを徹底して深める	60.2	55.3	56.3	51.9	58.0	55.8	37.6	60.0	56.5	
14. 技能やスキルを高めるために繰り返し練習する	75.8	50.7	80.6	83.1	69.0	79.5	50.0	74.1	76.7	
15. 試験や課題を通過するために相当の努力が求められる	77.4	49.3	85.5	80.2	72.1	77.5	50.0	79.4	79.2	
16. 教員や上級生の技能・スキルを観察する	53.0	48.6	62.1	<u>80.2</u>	57.1	50.6	50.0	52.8	58.7	
17. 課題や実践を通じて自分なりのコツや考え方を見つける	74.9	69.7	76.1	78.8	71.4	71.8	37.6	76.3	74.1	
18. 教員から何かの仕事や役割を任せられる	54.4	55.3	59.8	66.6	63.7	60.8	62.4	52.5	58.5	
19. 高校や中学校までの学習内容を復習する	33.7	22.4	23.6	22.8	22.2	33.7	<u>50.0</u>	<u>48.5</u>	32.1	35.6

注1：下線は、全体平均より10ポイント以上高いものにつけている。

注2：専門学校生の回答は、「よくあった」「ときどきあった」の合計。大学生の結果は、ベネッセ教育総合研究所による『第3回 大学生の学習・生活実態調査報告書 ダイジェスト版 [2016年]』に基づく。しかし、項目の言葉は専門学校生版と必ずしも同じではない。1は大学生版では「グループワークなどの協同作業をする授業」、2は「プレゼンテーションの機会を取り入れた授業」、3は「少人数のゼミ・演習形式の授業」、4は「上級生や下級生とやりとりがある授業」、5は「教員と双方向のやりとりがある授業」、6は「提出物に教員からのコメントが付されて返却される授業」、8は「教室外で体験的な活動や実習を行う授業」となっている。また回答項目も大学生版は「よくあった」「時々あった」の合計である。

した機会があると回答しているのに対し、専門学校生全体では6割程度となっている。大学との比較では専門学校ならではの学びの特徴が見られる一方、専門学校の中の多様性も決して小さくないといえる。

## 2 将来の仕事を前にした現実的な悩み

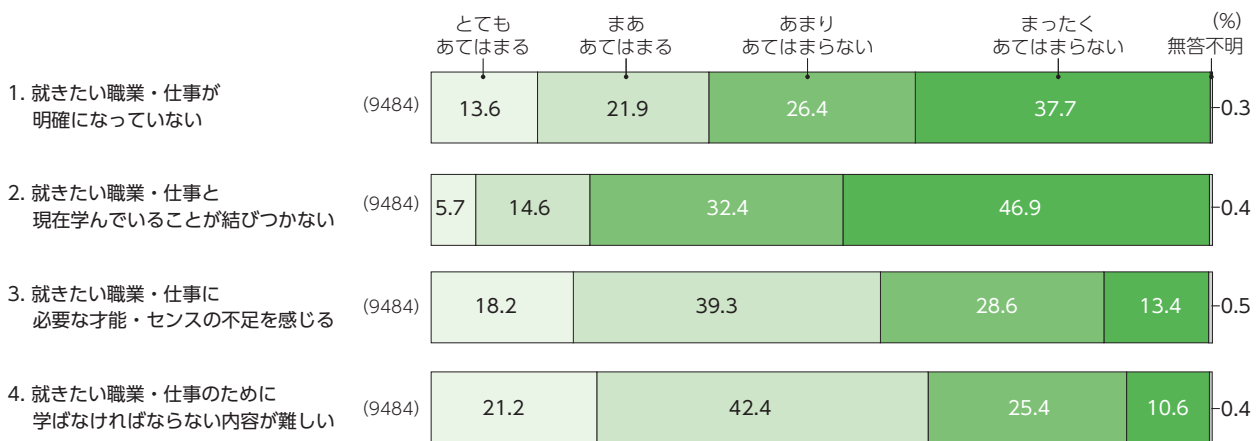
専門学校生はどのような悩みを抱えながら学校生活を送っているのだろうか。それを見たのが **図3-1** である。「1.就きたい職業・仕事明確になっていない」「2.就きたい職業・仕事と現在学んでいることが結びつかない」では、「まったくあてはまらない」が最大割合を占めており、「あまりあてはまらない」を加えるとそれぞれおよそ6割、8割となっている。この数値を特定の業界や仕事を進路先として想定する専門学校である以上「当然」と考えることもできるが、他方で4割近くの専門学校生が就きたい職業・仕事が明確ではないと回答していることから、専門学校入学後も仕事に関する模索が続く学生も少なくないとも考えることもできる。

「3.就きたい職業・仕事に必要な才能・センスの不足を感じる」「4.就きたい職業・仕事のために学ばなければならない内容が難しい」では、「まああてはまる」が

最大割合となっており、「とてもあてはまる」を含めるとそれぞれおよそ6割と過半数を超えている。これは職業教育機関としての専門学校で学ぶ学生ならではの悩みといえるのではないだろうか。働くために必要とされる様々な知識や技能、才能やセンスといった「現実」を目の当たりにしたからこそ、また先述したように共同作業等を通じて「仲間」の力量を目にする機会や提出物や課題に対する教員からのコメントも多い以上、自分の“いたらなさ”を痛感する機会も多いと思われる。そのことがこうした結果になって表れているのではないだろうか。

**表3-2** はこれらの悩みを専門分野別に見たものである。「1.就きたい職業・仕事明確になっていない」「2.就きたい職業・仕事と現在学んでいることが結びつかない」では、「農業」「服飾家政」「商業実務」が相対的に高く、「医療」「衛生」は低くなっている。「3.就きたい職業・仕事に必要な才能・センスの不足を感じる」では、どの分野もほぼ5割から6割程度となり、「4.就きたい職業・仕事のために学ばなければならない内容が難しい」では「医療」だけが7割に達している。ここからは、特に医療分野で学ぶ専門学校生にとって日々の勉強がいかに厳しいものが見えてくる。

**図3-1** 専門学校での学びや将来の進路に関する悩みについてお聞きします



注：( ) 内の数値はサンプル数

**表3-2** 専門学校での学びや進路に関する悩み×専門8分野

	工業	農業	医療	衛生	教育 社会福祉	商業実務	服飾家政	文化教養	専門学校生 全体 (%)
1. 就きたい職業・仕事明確になっていない	42.2	<u>50.7</u>	25.9	32.5	40.0	<u>49.7</u>	<u>50.0</u>	37.2	35.5
2. 就きたい職業・仕事と現在学んでいることが結びつかない	24.3	<u>36.8</u>	12.8	19.5	24.1	26.0	<u>37.6</u>	22.9	20.3
3. 就きたい職業・仕事に必要な才能・センスの不足を感じる	66.3	53.3	54.5	60.7	61.6	58.5	50.0	56.2	57.6
4. 就きたい職業・仕事のために学ばなければならない内容が難しい	68.5	45.3	73.1	59.7	64.1	54.0	62.4	56.0	63.6

注1：数値は「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計。  
注2：下線は、全体平均より10ポイント以上高いものにつけている。

### 3 大変だけど、あるいは大変だからこそ成長を実感できる学び

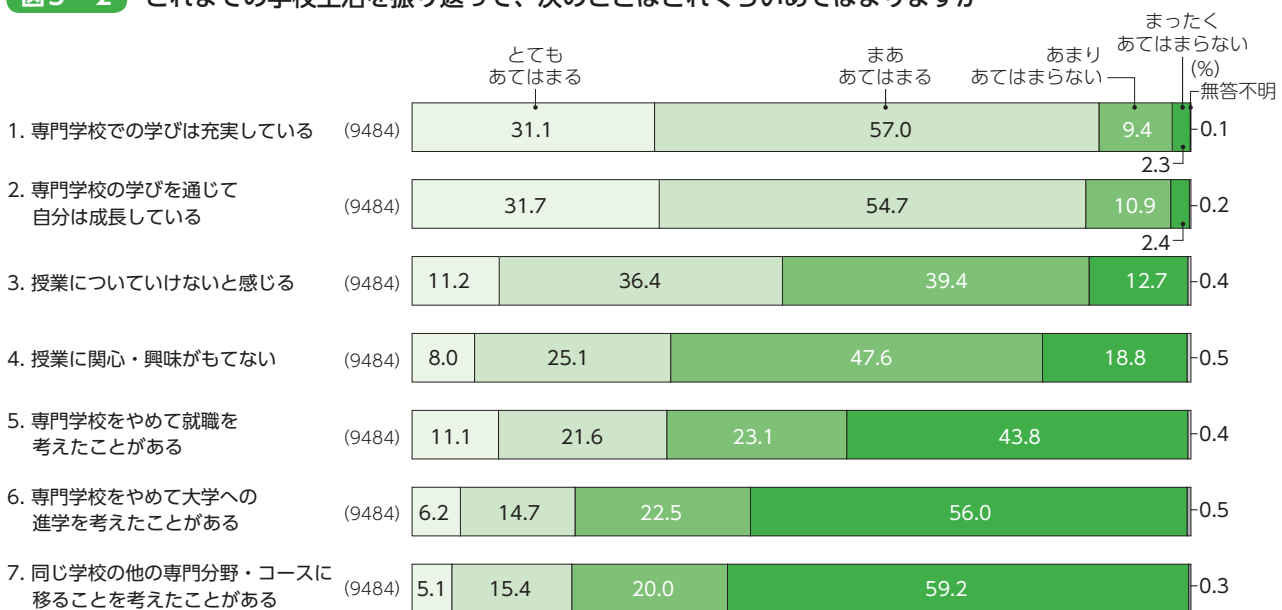
専門学校生は学校生活をどのように評価しているのだろうか。それを見たのが **図3-2** になる。「1.専門学校での学びは充実している」「2.専門学校の学びを通じて自分は成長している」では、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を合計すると、およそ9割の学生が専門学校での学びは充実していると感じており、また入学後の成長を実感していた。

「3.授業についていけないと感じる」では、「あまりあてはまらない」が最大割合を占めているものの、「とてもあてはまる」「まああてはまる」合計ではおよそ半数に達し、少なくない専門学校生が授業についていくことの難しさを感じていた。「4.授業に関心・興味をもてない」では、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の合計が7割近くになっており、多くの学生にとって専門学校の授業は関心・興味をもてるものになっている。

「5.専門学校をやめて就職を考えたことがある」「6.専門学校をやめて大学への進学を考えたことがある」「7.同じ学校の他の専門分野・コースに移ることを考えたことがある」は進路変更に関するものであるが、いずれも「まったくあてはまらない」が最大割合を占めているなど、進路変更に否定的な考えをもっている専門学校生が多いことがわかる。

**表3-3** は、「1.就きたい職業・仕事に必要な才能・センスの不足を感じる」「2.就きたい職業・仕事のために学ばなければならない内容が難しい」といった悩みがあることと学びの充実度、成長実感との関係を見たものである。前節で述べたように、多くの専門学校生が才能・センスの不足を感じ、学ばなければならない内容も難しいと感じているが、同時にそう感じている学生の8割以上が学びの充実感や成長実感を得ていることがわかる。特に学ばなければならない内容が難しいと感じることと学びの充実感を得られるか否か、成長実感を得られるか否かは大きくは関係しない、ということがわかる。

**図3-2** これまでの学校生活を振り返って、次のことはどれくらいあてはまりますか



注：( ) 内の数値はサンプル数

**表3-3** 専門学校での学びや進路に関する悩み×学びの充実度・成長実感 (%)

		専門学校での学びは充実している			専門学校の学びを通じて自分は成長している		
		あてはまる	あてはまらない	合計	あてはまる	あてはまらない	合計
1. 就きたい職業・仕事に必要な才能・センスの不足を感じる	あてはまる	85.9	14.1	100.0 (5450)	82.7	17.3	100.0 (5447)
	あてはまらない	91.5	8.5	100.0 (3976)	92.1	7.9	100.0 (3974)
2. 就きたい職業・仕事のために学ばなければならない内容が難しい	あてはまる	87.9	12.1	100.0 (6026)	85.8	14.2	100.0 (6023)
	あてはまらない	88.9	11.1	100.0 (3404)	88.2	11.8	100.0 (3401)

注1：いずれの「あてはまる」も「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計、「あてはまらない」は「まああてはまらない」「まったくあてはまらない」の合計

注2：( ) 内の数値は無回答・不明を除くサンプル数

## 4 仕事と結びついた実践的学びによる成長

それでは、どのような学びの機会があることが学びの充実度や成長実感と結びついているのだろうか。それを見たのが、**表3-4 学びの機会×学びの充実度**と**表3-5 学びの機会×成長実感**である。まず見えてくるのは、学びの機会が「あった」と回答した専門学校生のほうが学びも充実し、成長も実感しているということである。

学びの充実度、成長実感の差の特に大きな箇所は、「9.学んでいる内容と将来の関わりについて考える」「14.技能やスキルを高めるために繰り返し練習する」「15.試験や課題を通過するために相当の努力が求められる」

「17.課題や実践を通じて自分なりのコツや考え方を見つける」の4つである。すなわち、これらの機会があった学生とそうした機会が乏しい学生では、学びの充実度や成長実感に大きな差が生じている、ということである。

特定の業界や仕事に学生が就くことを念頭にカリキュラムは組み立てられ、専門学校生はその仕事で必要とされる技能やスキルを繰り返し練習し、それによって徐々に自分なりのコツや考え方を見つけることができるようになる。そして、そのことが充実感や成長実感へと繋がっていく——こうした学びの軌道を歩む専門学校生の姿が浮かんでくる。

**表3-4 学びの機会×学びの充実度**

		専門学校での学びは充実している （「とてもあてはまる」 「まああてはまる」合計 %）
1. グループワークなどの共同作業をする	あった	89.9
	なかった	79.1
2. 人前でプレゼンテーションをする	あった	89.7
	なかった	85.5
3. 少人数で学ぶ	あった	90.5
	なかった	84.4
4. 上級生や下級生とやりとりをしながら学ぶ	あった	92.2
	なかった	85.5
5. 教員と双方向でやりとり・意見交換しながら学ぶ	あった	92.7
	なかった	81.7
6. 提出物や課題に対して教員からのコメントがなされたり、コメントが付いたものが返却される	あった	90.9
	なかった	81.8
7. 学んだ内容をふりかえり、文章や口頭で表現する	あった	93.1
	なかった	82.5
8. 実験や体験活動などの実践を通じて学ぶ	あった	91.3
	なかった	81.5
9. 学んでいる内容と将来の関わりについて考える	あった	91.4
	なかった	74.8
10. 教員の自由な意見や見解に触れる	あった	92.7
	なかった	76.4

		専門学校での学びは充実している （「とてもあてはまる」 「まああてはまる」合計 %）
11. 最先端の技術や流行を知る	あった	92.6
	なかった	81.7
12. 最新の企業・社会の状況を学ぶ	あった	92.3
	なかった	82.8
13. 自分の考えを徹底して深める	あった	93.4
	なかった	81.6
14. 技能やスキルを高めるために繰り返し練習する	あった	92.0
	なかった	75.8
15. 試験や課題を通過するために相当の努力が求められる	あった	91.3
	なかった	76.3
16. 教員や上級生の技能・スキルを観察する	あった	92.7
	なかった	81.9
17. 課題や実践を通じて自分なりのコツや考え方を見つける	あった	92.8
	なかった	74.9
18. 教員から何かの仕事や役割を任される	あった	92.1
	なかった	82.7
19. 高校や中学校までの学習内容を復習する	あった	91.8
	なかった	86.5

注1：1～19までの「あった」は「よくあった」「ときどきあった」の合計、「なかった」は「あまりなかった」「ほとんどなかった」の合計。

注2：一重下線は10ポイント以上15ポイント未満の差、二重下線は15ポイント以上の差がある時につけた。

注3：色のついた箇所は15ポイント以上の差があり、かつ**表3-5**でも同様の箇所が15ポイント以上の差があったところである。

表3-5 学びの機会×成長実感

		専門学校での学びを通じて自分は成長している （「とてもあてはまる」「まああてはまる」合計 %）
1. グループワークなどの共同作業をする	あった	88.7
	なかった	75.3
2. 人前でプレゼンテーションをする	あった	88.8
	なかった	82.8
3. 少人数で学ぶ	あった	89.3
	なかった	82.2
4. 上級生や下級生とやりとりをしながら学ぶ	あった	90.3
	なかった	84.1
5. 教員と双方向でやりとり・意見交換しながら学ぶ	あった	91.4
	なかった	79.6
6. 提出物や課題に対して教員からのコメントがなされたり、コメントが付いたものが返却される	あった	89.4
	なかった	79.8
7. 学んだ内容をふりかえり、文章や口頭で表現する	あった	91.2
	なかった	81.2
8. 実験や体験活動などの実践を通じて学ぶ	あった	90.1
	なかった	78.9
9. 学んでいる内容と将来の関わりについて考える	あった	90.3
	なかった	70.6
10. 教員の自由な意見や見解に触れる	あった	90.7
	なかった	75.9

		専門学校での学びを通じて自分は成長している （「とてもあてはまる」「まああてはまる」合計 %）
11. 最先端の技術や流行を知る	あった	90.5
	なかった	80.8
12. 最新の企業・社会の状況を学ぶ	あった	90.7
	なかった	81.2
13. 自分の考えを徹底して深める	あった	92.2
	なかった	79.3
14. 技能やスキルを高めるために繰り返し練習する	あった	91.1
	なかった	71.5
15. 試験や課題を通過するために相当の努力が求められる	あった	90.0
	なかった	73.6
16. 教員や上級生の技能・スキルを観察する	あった	91.6
	なかった	79.4
17. 課題や実践を通じて自分なりのコツや考え方を見つける	あった	91.7
	なかった	72.1
18. 教員から何かの仕事や役割を任される	あった	91.6
	なかった	79.6
19. 高校や中学校までの学習内容を復習する	あった	91.0
	なかった	84.6

注1: 1～19までの「あった」は「よくあった」「ときどきあった」の合計、「なかった」は「あまりなかった」「ほとんどなかった」の合計。

注2: 一重下線は10ポイント以上15ポイント未満の差、二重下線は15ポイント以上の差がある時につけた。

注3: 色のついた箇所は15ポイント以上の差があり、かつ表3-4でも同様の箇所が15ポイント以上の差があったところである。

## 5 まとめ

本稿では、専門学校生の学びについて概観してきた。見えてきたのは、仕事で必要とされる実践的な技能やスキルを身につけるために学生にとっては高い“ハードル”を専門学校が設定しているということであり、学生はそれに苦しみながらも必死にくらいつき、自身の成長へと結びつけている姿である。残された課題としては、専門

分野別に見ることを軸としつつ、成長を実感している／していない学生の要因を分析すること、そして2節で取りあげたように4割近くの専門学校生が就きたい職業・仕事が明確ではないと回答しているが、その背景に何があるのかを分析することが挙げられる。